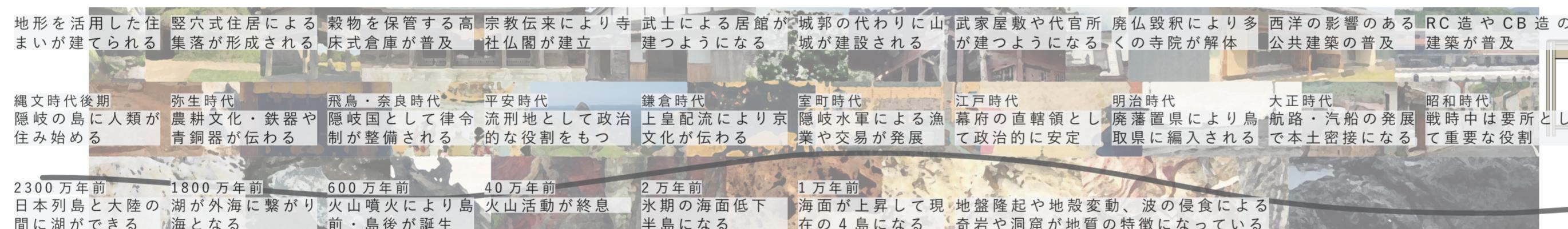


時代と世代を受け継いでいく隠岐の器

隠岐の島の雄大な「建築・人・大地」の延長にある交流施設

隠岐の島の歴史は、大地の成り立ちから始まり、今まで受け継がれています。数万年の悠久の時間軸で流れ、島のうえに数百年単位で推移する人の営みと豊かな建築の生態系があります。本計画では、それらの雄大さを受け継ぎながら次の時代の価値を生み出す隠岐の器を提案します。

[建築] の生態系

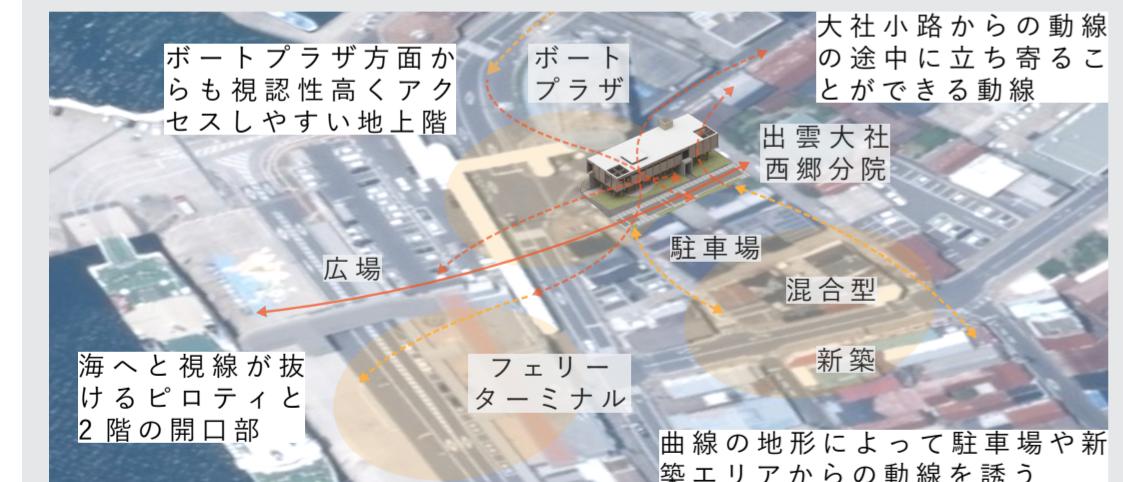


<提案する交流施設の在り方>

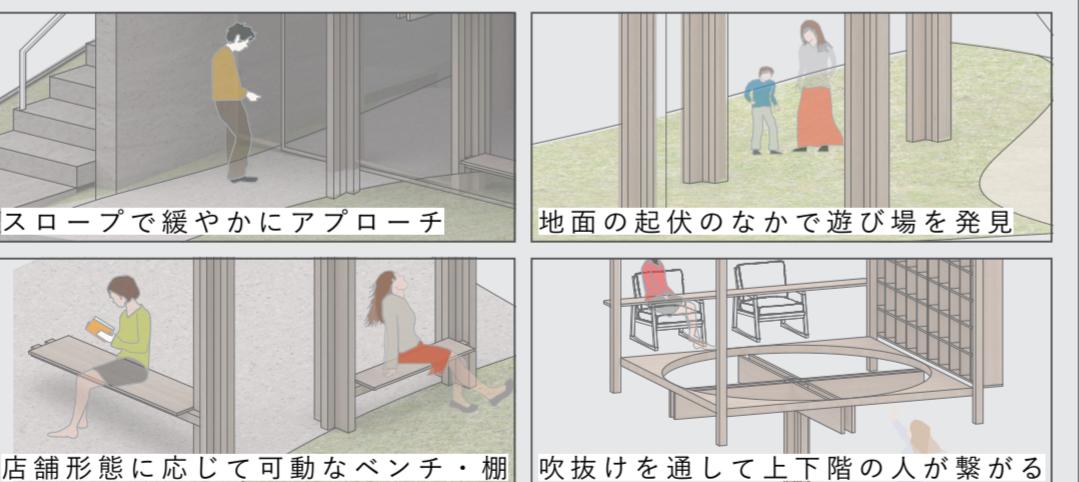
スクラップ＆ビルトではなく、部材を交換することで循環し、長く愛される公共建築材を更新することで、隠岐の街並みや寺社仏閣建築と時間スケールが調和していく。また、地上階のオープンな空間で、住民参加型で建物をメンテナンスすることで愛着のある場所となっていく。

大地の雄大さをモチーフに地上階は地形のような起伏で人々を緩やかに施設内へと誘います。緩やかな傾斜によって様々な方向からアプローチが可能になります。グリッドのないランドスケープに対して建築は1820モジュールの構成的な併まいすることで、大地のうえに建築が浮いているように見せ、地上階では人々の豊かな営みが街の風景を彩ることを意図しました。建築の柱梁架構はプレカットとせず、ボルトの付け外しで架構1本単位で交換できるようになります。

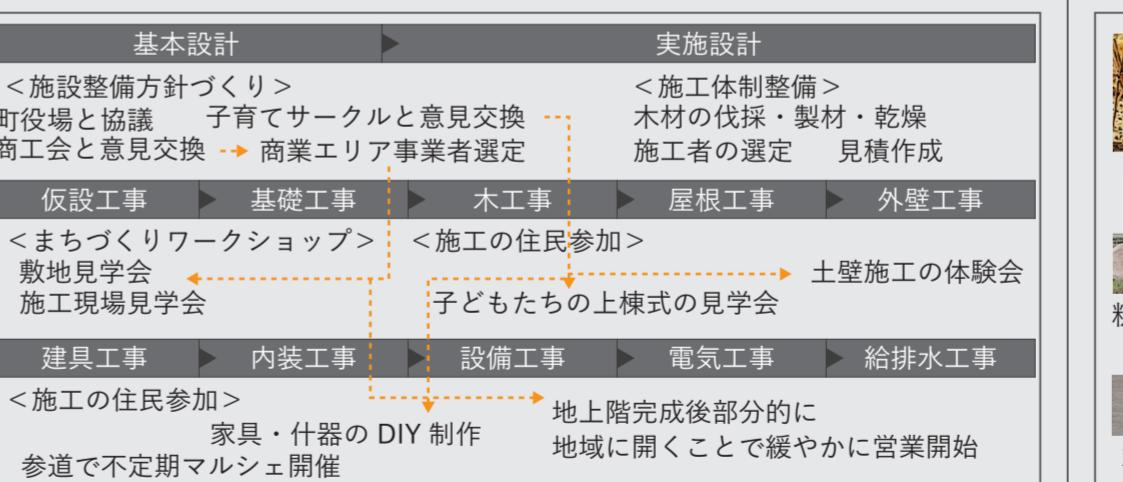
【景観】海・建築・神社の有機的な繋がり



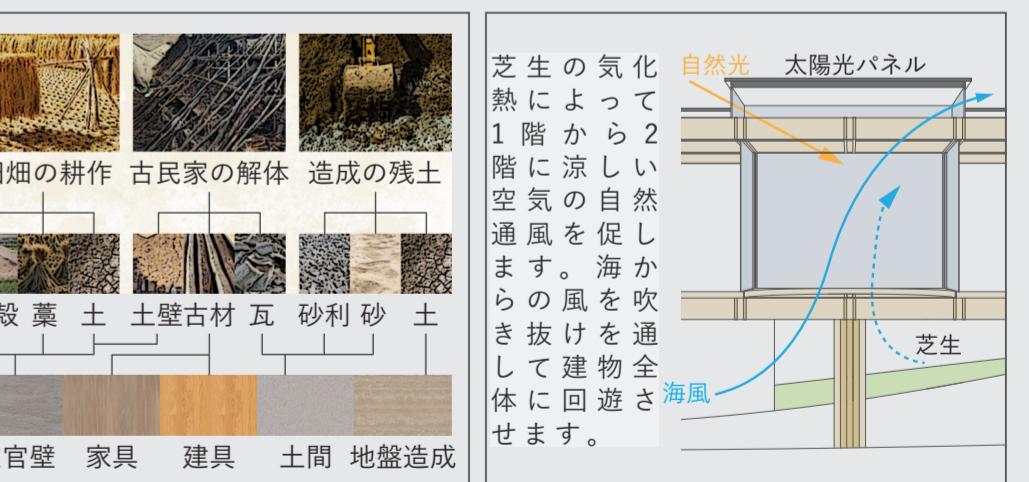
【機能・空間】多世代を繋ぐ緩やかな地形

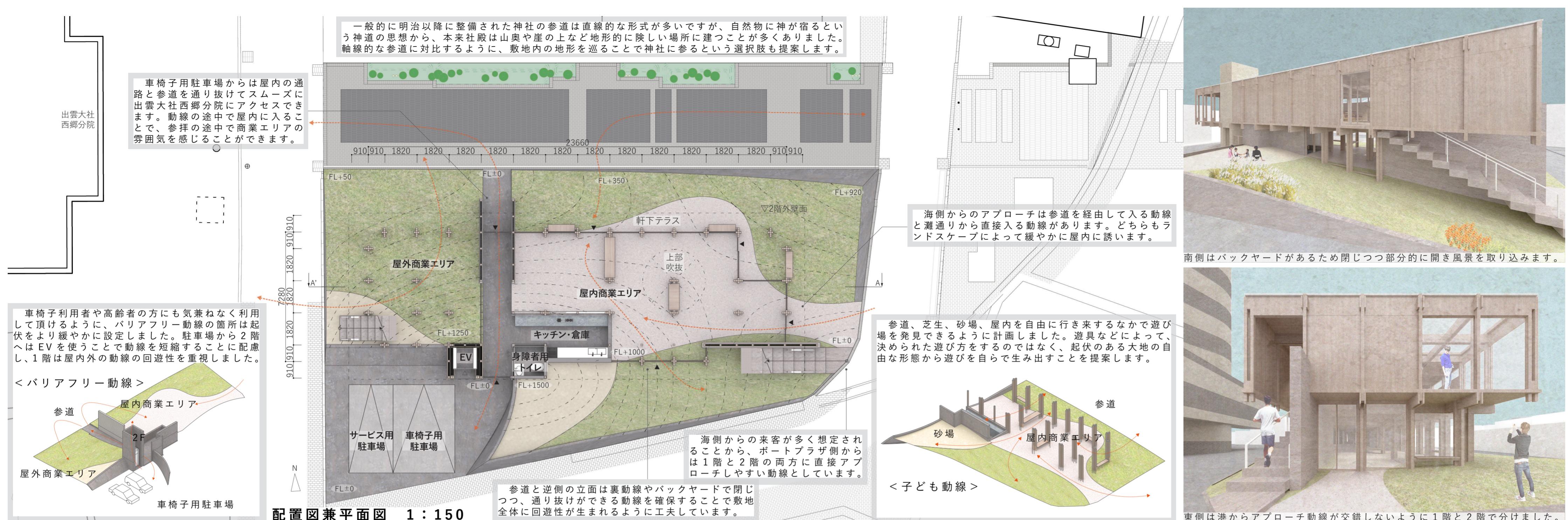


【官民連携】工程に地域住民が積極的に参加

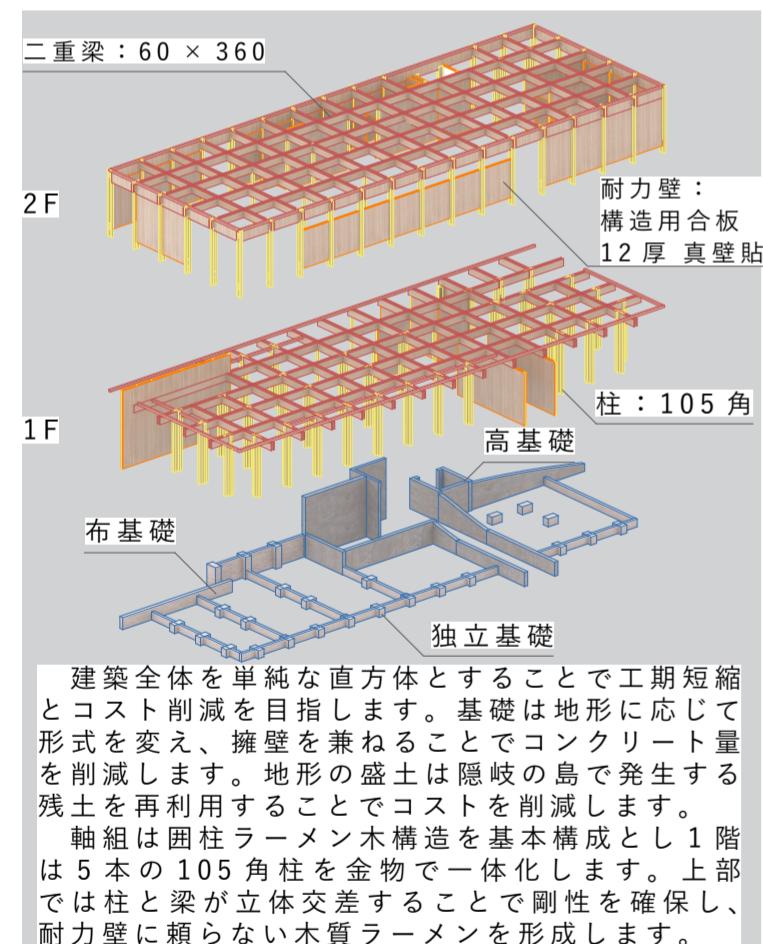


【地産地消・省エネ】隠岐のマテリアルの再活用



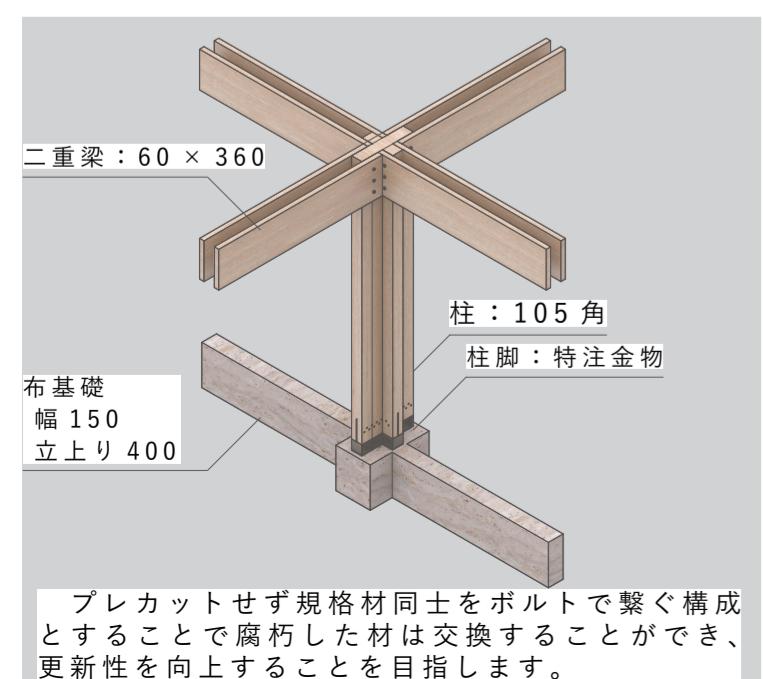


配置図兼平面図 1:150



2F 平面図 1:15

2階は1階に比べて少し外観は閉じた設えとすることで、1階の開けた雰囲気と対照的に穏やかな空気感で交流できる場所を提案しています。海への眺めや、吹抜けと天窓を通した1階との繋がりなど、部分的に開くことで象徴的な風景を切り取ることができます。小上がりの畳スペースを舞台のように設えたり、吹抜けと交流スペースの間を可動間仕切りで区切ったり、フレキシブルな利用方法に対応できるように想定しています。

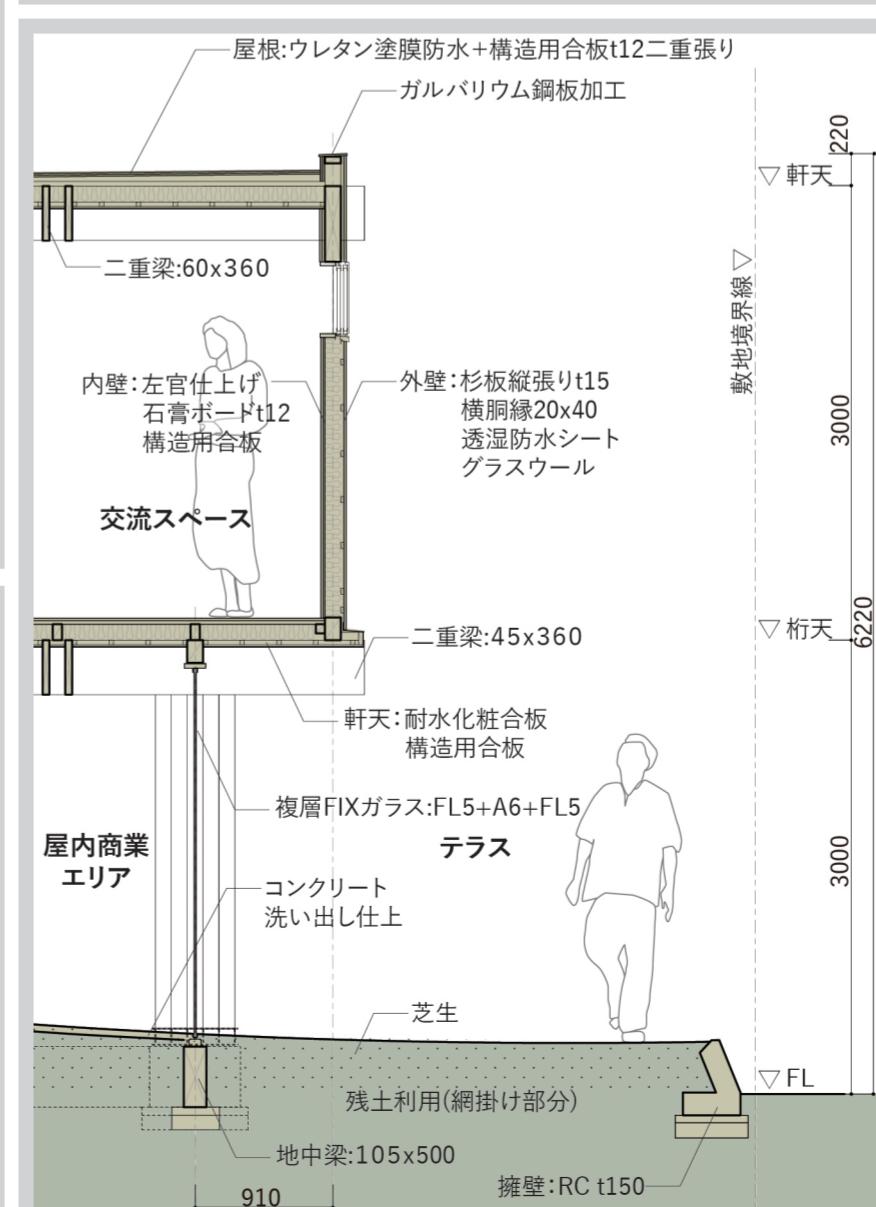


A-A' 断面パス 1:15



面積表

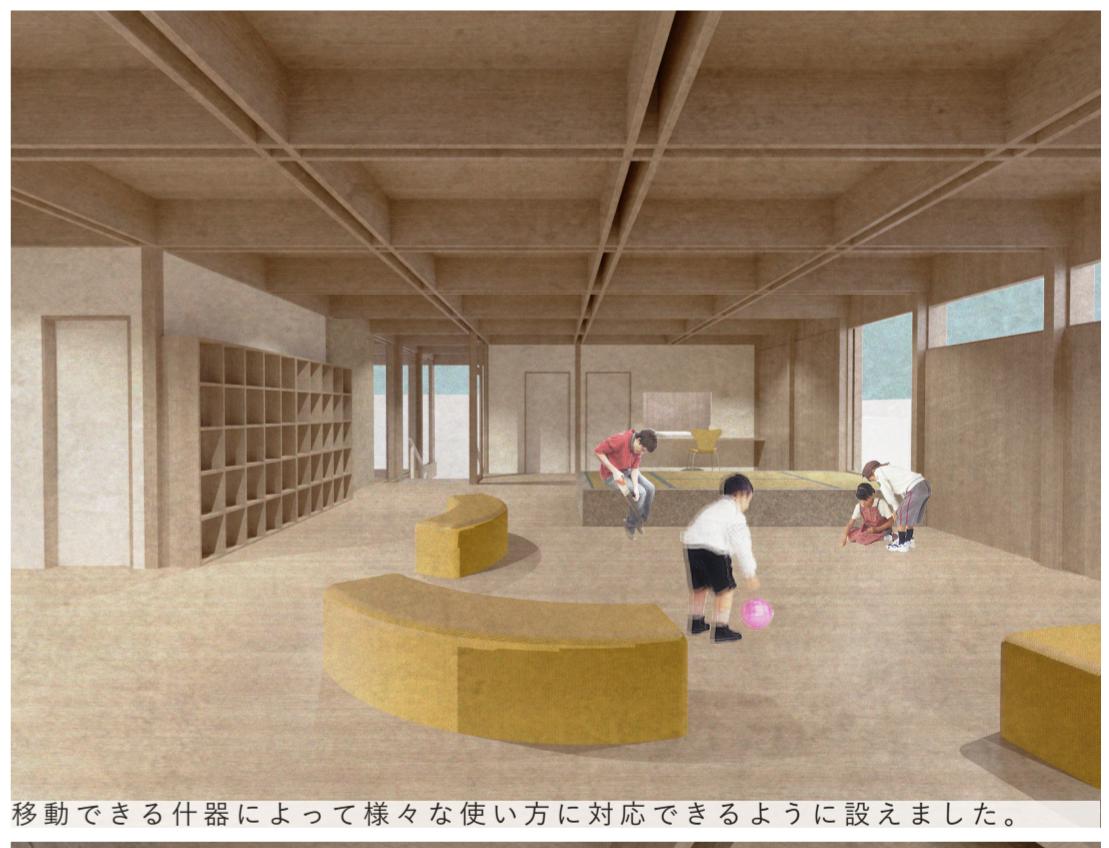
面積表	
延床面積：354.42 m ²	1階：民間商業施設 収益部：168.93 m ²
建築面積：242.07 m ²	・屋内屋外商業エリア ・軒下テラス ・キッチン / 倉庫他
建蔽率：51.28 %	2階：交流施設 185.49 m ²
容積率：75.08 %	・交流スペース：92.74 m ² ・フリースペース：56.31 m ² ・事務相談室：19.87 m ²



断面詳細図 1:50



東側は港からアプローチ動線が交錯しないように1階と2階で分けました。



移動できる仕組みに上、二種類を併用して対応できるように設えました。



東側のエントランスの横の壁面は暮らしや観光の案内板を掲示します。